

フロンティア

あべ晋三後援会会報誌

FRONTIER



2号





株式会社 神戸製鋼所 社長
亀高 素吉

安倍晋三君は、昭和五十二年成蹊大学を卒業後、米国の南カリフォルニア大学で二年間政治学を学ばれ、昭和五十四年に当社に入社されました。二年間の米国留学で培われた英語力と国際性の豊かさを評価され、新入社員にとって憧れともいえるニューヨーク事務所で社会人としてスタートされたのであります。

私が晋三君と初めて出会ったのも丁度この頃で、「澁刺とした好青年」というのが、晋三君に対する私の第一印象でした。この印象はあれから十数年経った現在でも変わることなく、今も当時の清々しい印象が思い起こされます。

その後、政治の道に進まれる決心をされて昭和五十七年十一月に当社を退社されるまでの約三年半の間に、晋三君はニューヨークに続いて加古川製鉄所の生産現場で額に汗し、続いて東京の鉄鋼輸出部では輸出ビジネスの実務を学ばれ、社会人としてのキャリアを積みめました。私はこの間に、幾度か晋三君の人となりを耳にすることがありましたが、人の評価は、まさしく「ナイスガイ」の一言に尽きるものでありました。上司、同僚からは、明朗で、思いやりがあり、人を引きつける魅力溢れる人物であると評され、またお客様からは、正確な判断力とその行動力を高く評価され大いなる信頼を受けたのであります。

当社を退社されてからお父上様の故安倍晋太郎先生の秘書となられたわけですが、晋三

君は外務大臣秘書官、自民党総務会長秘書幹事長秘書として、故安倍先生から生きた政治を学ばれました。私は、この間の努力と研鑽が晋三君を一回り大きな人間に育て上げ、そして貴重な経験の積み重ねと、お父上様より受け継がれた持ち前の優れた統率力と高い見識が、晋三君の信念である「未来は不変のものではなく、我々の努力によって創り出されていく」精神を生み出したと思っております。

このたび私は、晋三君が故安倍晋太郎先生の後継者として次回総選挙への出馬を決意されたとお聞きしましたが、現在のような経済・政治とも先行き不透明な時代にあつては晋三君のような若く清新な人が、新たな秩序を築く原動力にならねばならないと思います。

私は、晋三君がいつの日かお父上様のような国際的視野を持つスケールの大きな政治家になれるであろうことを期待しております。故安倍晋太郎先生の「夢」と「志」を心の支えとし、初心を忘れず、政治に爽やかな息吹を吹き込んで欲しいと思います。



作家
古川 薫

大志を継ぐ人

晋三さんと、最初にお会いしたのは、一九八四年ごろバリのアンバリッドにある長州砲返還の話が進められているときでした。それに関する何かの打ち合わせだったと思います。物腰やわらかな長身的好青年といった押し出しで「すべて心得ています。お任せください」と、明るい笑顔で言われたときの頼もしい第一印象が忘れられません。

安倍晋太郎先生が、国会議員に初登場されたとき、私は新聞記者でした。それ以来のつきあいで、文筆生活に入ってから個人的に親しくしていただいております。

晋太郎先生が外務大臣に就任直後、ミッテラン大統領と会談されると知って、私は長州砲返還を交渉してもらいたいと、速達でお願いしたのです。先生は「長州人の血が騒いだ」そうです。しかし外相の激務ということもあり、秘書官の晋三さんに一任されたのでしよう。この返還についてはフランスが強硬で、ほとんど実現不可能とみられていました。成功したのは秘書官の晋三さんの苦心によるものだと、後日外務省西欧第一課で聞きました。

例えばこういうことも晋三さんの政治力を実証するものだと、私はかねがね思っていました。頂上の椅子を目前に無念の死をとげられた父上の大志を継ぐべく、意欲に燃えておられる晋三さんに、心からの声援をおくります。



宇部連合晋友会 会長
松本 光雄

優れた素質と判断力・それに行動力

安倍晋三君は平成三年五月、父君晋太郎先生が国政のため心血を注がれ、総理を目前にして逝かれるや直ちにその後継者として衆議院選挙に出馬を表明されました。

晋三君は昭和五十七年、父君晋太郎先生が外務大臣に就任と同時に秘書官として三年余にわたり政治の何たるかを学ばれ、引き続き父君の薫陶をうけてこられました。

このことが晋三君の政界進出への基盤となっており、日本が世界各国に互し先進国としての道を見間違えることなく歩むことの出来る政治家として大いに期待される所以であります。

今日ほど日本の政治に改革を求められている時代はありません。特に政権を担当すべき自民党においてこの激動する時代を乗り切るには既成の政治力もさることながら、なによりも優れた素質と判断力、それに行動力をもった若い力が必要であります。

晋三君は政界進出を決意するや直ちに郷土、下関に居を構えて選挙区内を寧日なく往来し、ある時は青年達とまた婦人の皆さんと、ある時は高齢者の方々と相集い相まみえ、自らの政治信念を訴え、皆さんのご指導をいただいて自己研鑽につとめております。何卒、絶大なるご支援を願う次第であります。



晋友医会婦人部 部長
副院長 稲野 久子

「世界のあべ」と豪語し廻っていた私は、晋太郎先生御夫妻の年齢を上廻っており、そして何時の間にか私共夫婦の後を歩み始めた息子夫婦がおります。ふと、安倍先生御一家のことを不尊ながら我が身におきかえた時、「晋三さんを何とかしなくては!!」と。女性本能の「子を産み育てる」の生気が、はたまた、児の心を知り、伸ばし、育てることを生きがいとしている昨今の生活が尚更に、そうさせたのかも知れません。

今日、立派に成長し切っておられる晋三さんは、お若い方にはそれなりにお話し合いができ、年を重ねたものの愚問にも答えて下さるのではないでしょう。私共が抱いて来た夢を是非、晋三さんに再現して頂きたい。皆様と共に健闘を祈念いたそうではございませんか。





政治改革 新しい世代からの提言。

あべ晋三

一九九〇年代に入ってから、世界はソビエト連邦の崩壊をはじめ、世界地図をも変える大きな変化をとげました。その変化によって冷戦構造による秩序は崩れさり、国連を中心とした新しい平和への秩序作りが模索され、その中で日本もその役割を果たすことが期待されています。

また、国内に目を転じると、二十一世紀には今まで経験しなかった高齢化社会がおとずれます。現在の経済力を維持し、政府のサービスのレベルを保つためには大変な努力が必要となります。こうした時に大切なのはまさに政治家のリーダーシップで、それには国民の政治への信頼が必要ではないでしょうか。現在失われているその信頼を回復するために政治改革を断行しなければなりません。新しい世代の一員として次の改革を提案します。

一、選挙制度の改革

- 現在の選挙制度で多数党を目指せばどうしても、一選挙区で複数の候補者を立てねばならず同士の討ち合いとなり、その結果、政策とは関係のないサービス合戦になります。政党が一人だけ公認する『小選挙区制』は、政党同士の戦いとなり、政策が争われ、個人の負担も減少します。
- 有力な候補が三人出た場合、死票が多く出る危険性もあるので一位の候補者が五〇％を切った時は、二回投票制が必要と思われれます。
- 国民のニーズの多様性に応えるためには、参

院を完全な比例制にすれば少数党も存在可能となります。

- 党の公認決定は党員の投票による予備選挙で決めるのが国民にわかりやすく、現職の独占を防ぐ意味でも良いと思います。

二、政治資金制度の改革

政治資金の出入りは完全にガラス張りになければなりません。そして、政治家個人中心の集金から政党中心の集金に変え、政党に対しては公的資金の助成を行うべきでしょう。こうしたことによつてこそ、政治資金を提供することによる見返りの可能性をなくし、腐敗と訣別することが出来ると確信しております。

三、国会の改革

現在の国会は質疑と採決は行われますが、討論らしい討論はほとんど行われません。与党のみならず、野党も責任あるしつかりした対案を持ち、討論中心の国会にすべきでしょう。

以上が私の改革案の骨子です。吉田松陰先生は、正に変革の時代に次のようにおっしゃっています。

『天下の大患はその大患たる所以を知らざるにあり。いやしくも大患の大患たるを知らば、いずくんぞこれが計をなさざるを得ん』

現在の政治に大きな問題があることを私たちは気付いているのですから、今こそ改革しないわけにはいきません。

あべ晋三 プロフィール

1954年(昭29)9月21日 安倍晋太郎・洋子夫妻の二男として生まれる。
1977年(昭52)3月 成蹊大学法学部政治学科卒業、引き続き南カリフォルニア大学政治学科に2年間留学。
1979年(昭54)4月 株式会社神戸製鋼所入社。ニューヨーク支社・加古川製鉄所・東京本社に勤務のち1982年11月退社。

1982年(昭57)11月 外務大臣秘書官。
1986年(昭61) 7月 自由民主党総務会長秘書。
1987年(昭62)10月 自由民主党幹事長秘書。
1991年(平 3) 7月 故安倍晋太郎後継者として安倍晋三後援会事務所を各地に発足。
1993年(平 5) 1月 クリントン米大統領就任式に招かれ出席。
スポーツは、剣道、スキー、水泳、アーチェリー、テニス、ゴルフ、など万能。



政治に強く明るい光芒を……と、ソニー会長盛田昭夫氏。



力強い檄——山口敏夫先生。



ダイエー会長中内功氏も温かい声援。



安倍晋三氏の登場を待っている若手清和会の固い絆。



地元発展の為、村田自治大臣に陳情。



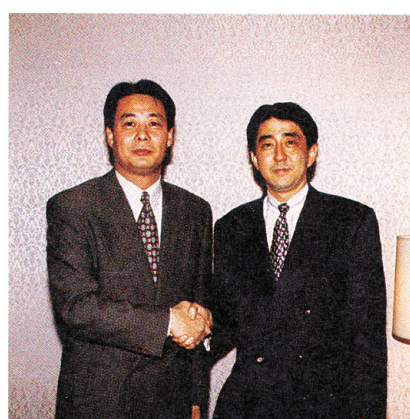
出来上がったばかりの本を総理大臣に手渡す。



国際親善パーティ。



よきアドバイザー森通産大臣。



私も応援します！経済評論家、海江田万里氏と。

フレッシュで即戦力。
恵まれた人脈。
スケールの大きさ。

働く人々の中に飛び込んで
なにかを掴みとろうとする
肌を感じとろうとする。



活躍する身障者にも熱いまなざし。



潜水服の製造工程を見学。



磯の香たっぶり。



清潔で迅速で丁寧。



安全を願う。



工程を聞く。



初セリ。



興味深い先端技術。



うわあ、大きいですね。



青果に携わる方々と。



世の中はクリーンでありたいものです。



水産加工に精励する方々と。



造船造機の元気な顔・顔・顔。



万全な衛生設備を見学。



医療問題を語り合う。

JOB
職場訪問



南部若潮会。



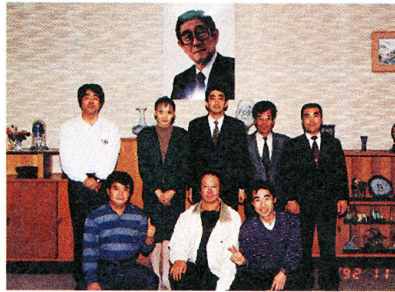
萩・阿武晋栄同志会。



源平倶楽部。



晋友釣り倶楽部。



山村グループ。

支える笑顔、
応える笑顔。



豊浦町晋友会婦人部。



油谷町青年部。



歯科晋友会婦人部。



三人揃ってハイ・ポーズ。



柏晋会。

励ましたつもりが
いつも励まされている
支援の人々の温かさ……。



晋成倶楽部。



下商晋八会。

COMMUNITY
ふ れ あ い

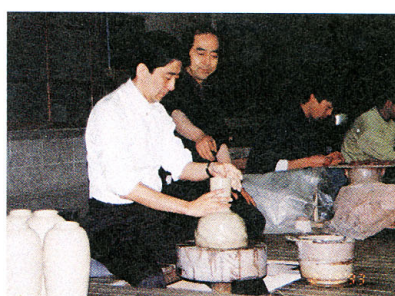
ある日、ある時、豊かなふるさとに向かって
新しい力は、今日も東奔西走。



家庭婦人バレーボール大会。



理容晋友会ボウリング大会。



創造の極致・萩焼に挑戦。



媒酌人として新郎新婦のご紹介。



上棟式恒例の餅まき。



園児の皆さんの笑顔が好き。



またお伺いしました。お元気で何よりです。



下関駅伝でスターの大役。



いつまでもお達者で——。



松陰神社参拝。



晋緑会ゴルフコンペの皆さんと。

CULTURE

訪 問 活 動

クリントン大統領就任式に 招かれた晋三さん



一九九三年一月二十日、あべ晋三さん夫妻はワシントン市にいました。連邦議会議事堂の西口玄関前特設会場におけるクリントン米大統領の就任式に招かれたからで、日本からの極めて少ない出席者に選ばれた名誉と幸せを、新政権スタートの喜びと共に噛みしめていたそうです。もちろん、ご尊父の広い世界観からなる日米関係に尽くされた貢献度が高く評価されての招待ですが、安倍晋太郎後継者としての政治家を志向する晋三さんへのエールの意味が含まれていたのかもしれない。

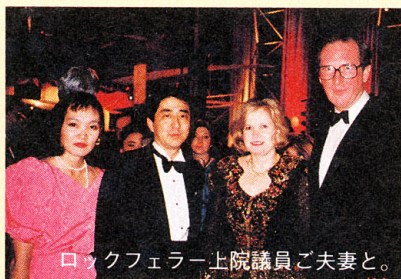
精力的に各界要人と会見し
新たな決意を固めた晋三さん。



クエール前副大統領と

例えば、民主党系のロビイストや、ロッキーフエラー上院議員、マンスフィード元駐日大使、クエール前副大統領、アーカンソー財界のグロブマイヤー氏、日米賢人会議のテイモンズ氏ら、そう

一年にわたる予備選、本選挙を勝ちとつての就任式はアメリカ国民みんなが喜びを分かち合うお祭り、あんなに論議を聞かせた民主党・共和党の人々が超党派的に新大統領を祝福する太らかさには、驚かされ、また、敬服させられたそうです。晋三さん夫妻は就任式の三日前にワシントン市に入り、大統領歓迎コンサート、大統領主催晩さん会、舞踏会、日本大使館公邸夕食会など公式行事がつぎきましたが、それでも寸暇を惜しんで新大統領の経済顧問の方々と精力的に会談しました。何しろ、アメリカきつての要人たちにとつて最高に忙しい日程の中で、果たして会って下さるかどうかが不安だったようですが、ほとんどの方が気持ちよく時間をさいて下さいました。



ロッキーフエラー上院議員ご夫妻と。

政権は日本にとつてブッシュ政権よりも厳しくなりそうだと、晋三さんは何度も思いました。その厳しさを緩和させるためには、一刻も早く、貿易の不均衡を是正しなければならず、できるだけ内需を拡大し輸出の量を減らして、日米関係を良い方向に持って行かねばなりません。だから、今後の外交面で大きな比重となるのは、日本の産業政策と農業政策だと再認識した晋三さんは、亡き厳父の意志継承者として新たな決意を固める契機となった就任式であったようです。若きクリントン大統領の息吹を身近に感じたあべ晋三さんの、更なる若き斬新な政治力に期待したいものです。

そうたる顔ぶれです。それはご尊父・晋太郎氏との間に培われた信頼関係によるもので、「外交の基本を亡き父に教わったと痛感した」と晋三さんも述懐しています。アメリカの多くの要人と会談しながら、クリントン



あの町この町 読者の広場

夢のある農業政策を

阿武郡 農業

まもなく、終戦から半世紀が過ぎようとしていますが、最も変わってしまったものは農村だと思います。

かつて、ジイちゃん、カアちゃんだけが農家を守っているという意味で「三ちゃん農業」という言葉がはやりましたが、今は、その頃よりもっともっと悪くなっています。第一、農家の若者はほとんど家業を継がず都会へ出て行くようになりました。しかし、これも無理からぬことです。街にはびこるぜいたくな色彩や遊び、これでもかこれでもかのグルメやファッション、それに週休二日制と高報酬の企業などなど、若者時代をはるか昔に過ごした私でさえも、そちらのほうに憧れてしまいます。

また、結婚問題にしても、農村の娘さんが農家の嫁になりたがらない現実はどうすることも出来ません。

外国から農産物が大量に輸入できる間は、あまり切実感も湧かないものですが、万が一、それが途絶えた時、日本は戦中戦後にまさる飢餓を味わうこと必至です。

農村の子供たちが自ら進んで農業を継いでくれるような、そんな夢のある農業政策を、ぜひお願いしたいと切望しております。



地域振興について

下関市 主婦

山口県第一の都市「しものせき」は、低迷の時代が長く続きすぎて、未来に明るさが見えないのは私だけでしょうか。

水産や造船の企業が相次いで姿を消し、銀行も次々に撤退して、人口は増えるどころか減少の一途をたどっています。国の「地方拠点都市整備法」の一次指定に私ども婦人も大いに期待したのですが、それも県中央部に持って行かれる始末で、これでは下関の街から若者の姿がどんどん少なくなっても仕方のないことだと、なかばあきらめの状態です。

でも、考えてみれば、下関には大学と短大が六つもあり、ほかに専門学校もあります。そして、日本の歴史を何度も変えた有名な史蹟がたつぷりとあります。

そこで、全国から集まって来た学生さんを卒業後も下関に定住して貰うための魅力と、源平、幕末などの観光資源を生かした地域振興策を一刻も早く打ち出して欲しいと願ってやみません。

戦後、市内に二十五館あった映画館は、現在はわずかに四館、それも二年先にはゼロになるという噂もあります。若者定住のためには、そのようなところから取り組むことも必要かもしれません。

失ってからそのものの存在の大きさを知る、という繰り返しが、下関を低迷化させた原因でもあろうかと、私は考えるのです。

PKO = Peace Keeping Operations (国連平和維持活動)

毎日のようにマスコミを賑わしている金権腐敗については、今更なにも言うまい。

国民は一樣に既成の政治に対する不信任を抱いており、有権者意識は、何とかして政治を変えなければ日本は駄目になってしまおうというせっぱ詰まったものになっている。八女と柳井の新市長に三十代の若さが選ばれたのは、選挙民の危機の表れに違いない。

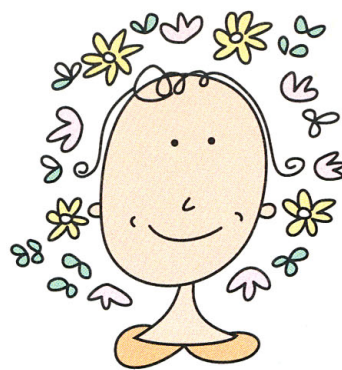
私はずいぶん長い間、安倍晋太郎先生の若さと行動力と誠実さに期待しつつ、応援しつつ来てたものだが、悲しいご逝去のあとは、何としてもご子息の晋三さんに、あの大いなるご意志を立派に継いで頂きたいものと心から願っている。

ご尊父は「地方発の情報」を常に大切にされた方だが、それは一極集中の弊害を憂慮し地方分権の必要性を感じられたからで、その先見の明はご子息にも受け継がれていることだろう。

一般に政治家を長くつとめると政治とは何？ という初歩的な考え方がおろそかになり勝ちだが、ご尊父は「場当たりの対応」をいちばん嫌っておられた。いつでも、どんな時でも、そしてどのような小さな声でも、必ず真剣に聞きとめて下さったあの姿勢は、政治家だけでなく私どもにとっても見習うことが多かった。ともあれ、最もエスカレートした政治不信の今、私たちは、真の政治家を目指す新しい人を求めている。晋三さん、ガンバレ!!



かわはらさか子 '93 / 作画



主人の好物と

我が家の愛犬

主人の好きな食べ物ースイカ、ラーメン、おせんべ、いかの塩辛、駄菓子、お好み焼き、もつ鍋、焼き鳥、アイスクリーム、うなぎ、焼肉、するめ、バナナ、おもち……

最近、特にとんこつラーメンに凝っている。

お腹がすくと「ラーメン食べに行こう!」ちよつと時間があると、ラーメン屋さんに足を運ぶ。本格的なとんこつラーメンを食べたことのない私は、下関で初めてお店に入った時、独特な臭いに少しびっくりしたことを覚えているが、主人につきあわされて何度か行くうちにすっかりとんこつ派になってしまった。ラーメンの良いところは、早い、おいしい、安い、と三拍子揃っているところだろうか。時間のない主人にとって、気

軽に食べられるラーメンはまさにうってつけの食物なのだろう。

おいしいラーメンを食べるためにはどこまででも行くので(但し、現在は選挙区内に限る)ここぞというお店をご存じの方は、是非とも教えて頂きたい。

☆

☆

我家の愛犬クーパーは、昨年7月生まれのシベリアンハスキー犬、体重二十五キロ。庭中に穴を掘り、時には自分で門を開けて外をうろうろ……いたずらっこで手におえないこともあるが、見かけによらず人なつこく、ご近所のアイドルとなっている!?

私は犬が大好きで、ご挨拶に伺ったお宅の犬を見るのも、ひとつの楽しみ。ご自慢のワンちゃんをご紹介頂きたい。見せて頂きに伺います。また、紙面でご紹介させて頂きます。

ラーメン屋さんとワンちゃんのご連絡、お待ちしております。

安倍昭恵



新刊紹介

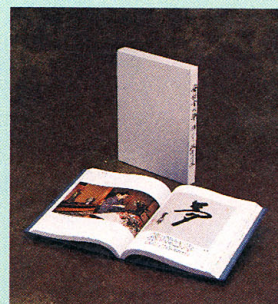
編集・発行=安倍晋太郎
伝記編集委員会
仕様=A4判、232頁、
上製本箱入り

「安倍晋太郎 輝かしき政治生涯」

シュベルトの交響曲第八番口短調は、第二楽章までという「未完」だが秀れた完成品として広く愛されている名曲——。政治家の頂点を目の前にしながら志半ばで倒れた安倍晋太郎氏もまた、天辺を極めた以上の大政治家として人々の胸の中で美しく編曲され、永遠に奏でられ続けるに違いない。

三十年を超える長い議員歴に安倍氏が遺した功績を数えあげればきりが無いが、その中で最も特筆されるものは日米関係の更なる強化と、行き詰まり状態だった旧ソ連関係の打開だろう。日米親善交流のための安倍基金と、自ら訪ソしてゴルバチョフ氏らの初来日を実現させたことだ。それ以外のためにも安倍氏は文字通り東奔西走、度重なる記録的な外国訪問によって日本の誠意を示した。すぐれた国際感覚を駆使しての創造的外交が、日本の地位や信用を高めたことは言うまでもない。

この書は、新聞記者出身の安倍晋太郎氏のために、親交のあった各社政治部記者有志が二千余枚の写真の山から五百葉ほどに厳選して、その活躍ぶりを証したものだといふ。なるほど、ここにはかつて金権腐敗を糾弾した安



倍寛代議士の正義感を血脈とする晋太郎氏の、世界平和を願う獅子奮迅ぶりがたつぷりと盛り込まれている。温かき偉大な政治家・安倍晋太郎氏の足跡は、まさに完成された『輝かしき政治生涯』であった。

紙名「フロンティア」について

Frontier——すっかり日本語化された言葉ですが、本当の意味は案外知らないものです。「アメリカ開拓期における開拓地の最前線」と『新世紀大辞典』にあり、『広辞苑』には「(科学などの)最前線。未開拓の分野」の意もあると書かれています。二十世紀も、もうすぐそこ。希望の近未来への突入です。幸せと平和を願う新たな時代は新しい世代がー丸となって切り開いていかねばなりません。いわゆるフロンティア・スピリット……。

あべ晋三さんは、常に「未来は不変なものでなく我々の努力によって創り出されていくもの」と考えていると言っています。私たちがこの会報『フロンティア』としましたのは、その心意気にぴったり合う言葉だと思っただけです。

「フロンティア」は随時発行しますので未永いご愛読と益々のご支援をお願い致します。

Next News

- マンガでわかる政治シリーズ
第2回 一極集中って何?
- 寄り添う人の陰の声
第2回 昭恵さんが語る主人のこんな一面

その他「あの町この町・読者の広場」なども続けますので、知りたい情報や、ためになるお話など、あべ晋三後援会事務局までお寄せ下さい。

フロンティア 2号

1993年(平成5)4月

発行所/ あべ晋三後援会